

総合的な学習を通じた地域防災力の向上方策

瀧 健太郎¹・中西 宣敬¹・原田 正彦²・山本 和久²

¹滋賀県土木交通部河港課/流域治水政策室

E-mail: taki-kentaro@pref.shiga.lg.jp

²滋賀県東近江土木事務所河川砂防課

水害に関する地域防災力の向上を図るため、小学校の総合的な学習の時間を活用し、自然環境や地域文化に関連付けながら、地域の水害特性とその対処法を学習させることを試みた。具体的には、小学校4年生の児童を対象に、①河川での生きもの調査、②川と地域の関わり（河川の形状や集落の配置の背景、水害履歴など）、③通学路の危険箇所調査、④子どもハザードマップづくり、⑤水害体験者のお話、という順で2週間おきに5回連続の学習を行った（一回あたり2時限、計10時限）。これは、川で楽しむことをきっかけに川への興味をかきたて、水利用や水害も含めた川と地域との関わりの学習を経て、積極的な学習姿勢を引き出すことを狙った構成としている。学習後半の児童たちの言動や、事後アンケートの結果から、児童が、日常生活（通学時など）において、自発的に水害を意識する傾向が顕著に確認された。ここから、“自然環境、暮らしや文化と水害の多面的な関係性を、体験的に学習させる取り組み”が、水害に関する地域防災力の向上に大きく寄与することが示唆されたと言える。

キーワード：地域防災力，総合的な学習，多面的な関係性，体験的学習